

口は「食事」「会話」「呼吸」「睡眠」に深く関係しています。これらは通常、健全な発達で自然に獲得できていくものですが、口の機能に障害があるときさまざまな弊害をもたらす、生活や発達に大きな影響を及ぼします。

そこで発達障がい児の口腔周囲筋を訓練し、口腔機能を改善する方法の開発を目的として、井手友美先生（九州大病院診療准教授）、玉井浩先生（大阪医科薬科大名誉教授）と、科学研究費助成事業の助成の下、訓練方法に関する研究を始めました。

障がい児を育てる家族にとって、訓練は安全かつ簡単で、しかも効果が期待できる方法である必要があります。

障がい児と口腔機能(下)

これまでの研究で、口腔周囲筋訓練器具を使って1回3分間、1日4回以上の訓練を行う（私たちは「クチトレ」と呼んでいます）ことで良好な変化が出てくることが分かりました。子どもたちの滑舌が改善するだけでなく、問題行動が減り、笑顔が増え、姿勢も良

一日一題

くなり、睡眠の質も良くなる傾向が見られました。

現在進行中のクチトレ研究では、より手軽に、そして効率的に訓練するために、定期的なオンラインによるクチトレ指導を中心としました。これは予想以上に目を見張る成果が出て

山陽学園大准教授 上地 玲子

おり、私たち研究チームも驚いています。

発達障がい児の子育てに家族が費やす時間や労力は極めて大きいものがあります。それぞれの子どもが抱える問題は多種多様で「何をどうしたらわが子の発達が少しでも改善するのか」「まずはこれだけはやりましょう」ということを指南してくれる教科書もありません。中にはさすがの思いで高額な教材やサプリをやみくもに購入してしまうことも珍しくありません。

障がい児と暮らす家族の日々の困り事が少しでも解決でき、家族の笑顔が増えるための取り組みにつなげていくことを目指しています。

2024・1・23